

## 2026 アジアローイングカップ ITO 参加報告

東京都ローイング協会所属  
国際審判員 山崎 佳奈子

### 【はじめに】

2026 年 4 月 23 日（木）から 4 月 26 日（日）、韓国・忠州で開催された 2026 アジアローイングカップに International Technical Officials (ITO) として審判として参加いたしましたので、以下ご報告させていただきます。

### 【大会概要】

大会期間：2026 年 4 月 24 日～26 日

ITO 活動期間：2026 年 4 月 23 日～26 日（23 日は審判ミーティング・Practice Start）

コース： Chungju Tangeum International Regatta Course

種 目： <National Team>（14 種目）

M1X、M2X、M2-、M4-、M4X、LM1X、LM2X、W1X、W2X、W2-、W4-、W4X、LW1X、LW2X

<Club Team>（13 種目）

M1X、M2X、M2-、M4X、M8+、LM1X、LM2X、W1X、W2X、W2-、W4X、LW1X、LW2X

参加国：CHN、KAZ、PHI、TPE、HKG、KOR、SGP、UZB、INA、KSA、SRI、VIE、IND、MAS、THA（15）

### 【コース概要】

韓国・忠州は朝鮮半島の中心に位置し、緑豊かな都市で気候が穏やかな場所です。

「Tangeum International Regatta Course」は忠州ダムによって自然に形成された湖で、2024 年パリオリンピックのアジア最終予選（アジアカップと併催）が開催されました。来年 2027 年の FISU が韓国で開催されるとのことで、関係者が PR に来ていました。

### 【参加 ITO 審判員】

**President of Jury**：SIU Kin Wah (1228/香港)

**Jury**：10 名

LEUNG Ying Kit (1838/香港), WONG Kar Man Carmen (1780/香港), ZAINAL AZIS Machdalena (1293/インドネシア), YAMAZAKI Kanako (1782/日本), HAN Sanghoon (1898/韓国), NAM Sang Ran (1683/韓国), RYU Damjoo (1864/韓国), MAUNG Chan Myae (1656/ミャンマー), CHAIRAT Phongphanphanee (1775/タイ), POCHANASOMBURANA Angela (1818/タイ) ※( )は(WR 審判番号/国)

当初決定していた 13 名（うち 1 名は POJ）のうち 2 名が不参加となったため、11 名という割と少ない人数になりました。

### 【審判ミーティング】

審判ミーティングは前日 23 日に行われ、POJ の Dr. SIU より以下の説明がありました。

- (1) 主審は全レースダイナミック（全追航）で行う
- (2) レースは 8 分間隔
- (3) 本大会はナショナルチーム（国代表）とクラブチームのカテゴリーがあり、クラブチームは漕力に差があり、中には始めて間もないクルーも出漕する
- (4) 2026 年度 WR ルールに則り行う※

※2026 年度 WR ルール改訂による艇計量の重量について

Additional Items to be removed 追加で取り外すべき品目

Equipment which is not to be included in the weight of the boat shall be removed from the boat before weighing. ボートの重量に含まれない機器は、計量前にボートから取り外さなければなりません。

The following equipment items shall be removed from the boat prior to boat weighing: 以下の機器は、ボートの計量前にボートから取り外さなければなりません。

logger(box) データロガー（ボックス） monitors / displays / athlete screen モニター／ディスプレイ／アスリート用スクリーン any additional. sensors such as boat speed sensor その他ボート速度センサーなどのセンサー-transmitter box 送信機ボックス

The equipment items that are not included in the weight of the boat but where firmly fixed to the boat shall be allowed to remain in the boat during weighing include the following: ボートの重量に含まれないものの、ボートにしっかりと固定されている機器は、計量時にボート内に残しておくことが認められます。これには以下のものが含まれます。

junction boxes (wired system) ジャンクションボックス（有線システム） angle sensors 角度センサー

batteries バッテリー attachments (brackets) for monitors/displays/ athlete screen モニター/ディスプレイ/アスリート用スクリーンの取り付け金具（ブラケット）

Where these equipment items remain fixed to the boat during boat weighing, **the following standard weight allowances shall be subtracted from the measured boat weight:**

これらの機器がボートの計量時にボートに固定されている場合、測定されたボート重量から以下の標準重量許容値を差し引く必要があります。

| Boat Class | Wireless System (e.g. NK Xboat) | Wired System (e.g. Peach) |
|------------|---------------------------------|---------------------------|
| 1x         | 0.2 Kg                          | 0.6 Kg                    |
| 2x         | 0.4 Kg                          | 0.9 Kg                    |
| 2-         | 0.4 Kg                          | 0.7 Kg                    |
| 4x         | 1 Kg                            | 1.7 Kg                    |
| 4-/4+      | 0.7 Kg                          | 1.2 Kg                    |
| 8+         | 1.4 Kg                          | 2.4 Kg                    |

### 【Practice Start】

空港からコースに直行し、同じく到着した香港の審判、タイの審判と Practice Start（スタート練習）のスターターを務めました。

スタート練習は選手にとっても練習ですが、私たち審判にとってもそこで初めてスタートシステムを触るので大事な練習です。今回のシステムは通常世界大会で使っているシステムと同様でしたが、ボタンを押して発艇した後にスタートスイッチが自動で戻らず、回して引いて戻す必要があるとの説明を受けました。



スタートシステム

### 【レース1日目】

#### AM : Umpire1（主審1）

レース初日の午前中は主審1でした。

主審艇は1～5までの5杯、POJからは審判艇に日よけシェードが設置されているが、赤いシェードがあるのでその場合は使わずに畳むように指示がありました。（結局赤シェードの審判艇は使われませんでした）レーンは7レーンまでありましたが、7はライトが無いということで、6杯レースは1～6、5杯レースは1～5、4杯レースは2～5、3杯レースは2 3 4と指示がありました。ナショナルチームとクラブチームの漕力に差があり、前のレースのクルーが明らかに遅く追いつく可能性がある場合は遅いクルーを逃げさせるという話も出ていました。（結局逃げることなくゴールできました）



実際は紺のシェードを使用

主審1のドライバーは Lee Jin Sook という女性で、韓国では元選手でコーチをしているそうです。とてもセンスのあるドライバーで、動いてほしい方向を指示したときにはもう動いており、確認したいことを韓国語で他のドライバーに聞いてくれる、とても連携できるドライバーでした。

### PM : Judge at the Start (線審)

午後は線審でした。全艇が揃ったことを示す白ライトがあるのですが、日差しで見えにくく、午前中はボランティアに補助的に白旗を掲げてもらっていたそうです。ボランティアはリンダさんという方で、本来 ITO のための英語と韓国語の通訳という立場だそうで、午後からは白旗は無くても大丈夫ということでアライナーとの通訳を務めていただきました。

アライナーは Sun Sang Nim さんという方で、先生と呼ばれていました。

少しでも韓国語を覚えようと考え、リンダさんに 1 (イル) 2 (イー) 3 (サン) 4 (サー) 5 (オー) を教えてもらいました。



アラインメントシステム

アライナーとボートホルダーの間の無線は無く、ポンツーンに聞こえるマイクで話していたので、そろえている声がスタートエリアに聞こえる状況でした。一度揃って白ライトを点灯したのですが、その後微調整をするアライナーの声が聞こえてしまったので、スターターからは「一度白ライトを消すように」と指示がありました。

日本では白旗を掲げてからの微調整はできるので、そのつもりで消さなかったのですが、このような場合はやはり一度消すべきだったと思いました。

### 【レース 2 日目】

#### AM : CC-OUT (出艇監視)

レース 2 日目午前中は出艇監視でした。ITO の数が少ないため、2 つある出艇桟橋で ITO は 1 名、後は NTO が 2 名おり、NTO は主に ID と出艇チェックを担当し、ITO が広告とセーフティ（艇の表示、シューズがクイックリリースになっているか等）を担当しました。

同時刻に出艇するため、当初桟橋に降りる前にセーフティチェックをする予定でしたが、1 艇を見ている間に他の艇が桟橋に降りてしまい、桟橋まで駆けて行って確認するということもありました。



asianrowing のステッカーの前にステッカーが貼ってある

ヒールロープの結びが甘く、水平を超えるクルーがいたため紐を結びなおすよう指示しましたが、一緒にいた NTO が7センチだから問題無い（実際はそうではなかったのですが）と仰いました。

WR のルールは変わっており、ヒールロープは7センチではなく靴が水平になる長さまでしか許容されず且つ漕手がシングルハンドアクションで外せることと伝えると不満のようでしたが、ここは譲れないので結びなおしてもらいました。

#### PM：CC-W（選手計量・艇計量）

午後からは舵手付き種目は無く、軽量級選手の計量を担当しました。14 時からのレースのため計量は 12 時から始まります。午前の出艇監視終了後、急いで昼食をとり計量に向かいました。



選手計量所



選手計量器



艇計量器

男子軽量級シングルスカルと男子軽量級ダブルスカルでしたが、全員体重はクリアしており、中にはジャージを着たまま計量してなおかつクリアした選手もいました。

最後の選手計量と最初の艇計量が重なる可能性があり、艇計量所の NTO には「選手計量にいるから呼びに来てほしい」と伝えましたが、とはいえ選手計量から離れることもできず、円滑に進行することを願いながらなんとか選手計量を終え、その後慌ただしく艇計量に向かいました。

昨日艇計量を担当した韓国の HAN Sanghoon から 3 艇の BUW があったと聞いたので、私の時もあるかと思っていましたが、持っているのか持っていないのか、この日の午後の BUW は 0 件でした。初日の審判ミーティングで言われていった「Additional Items to be removed（追加で取り外すべき品目）」については艇計量対象には見当たらず、計算をしなくて済みました。

レース後に他の審判から「艇計量どうだった？」と聞かれたので「No BUW So Happy！」と答えました。経験的にはあった方がよかったのかもしれません。

#### 【レース 3 日目】

##### AM：Starter（発艇）

レース最終日は決勝で、撮影もドローンも入るということで、POJ の計らいにより午前も午後もスターターは女性（午後は韓国の NAM）となりました。POJ の Dr. SIU からは「ロールコールやアテ

ンションは語尾を下げるように」と言われました。私は語尾を上げてしまうので、それを言われたのかと思います。

忘れないように、スタートリストに ♫ と書き込み、ゆっくり丁寧にロールコールしたところ「Gentleすぎる」と無線が入りました。改めてスターターとしての発声の難しさを実感しました。アジアや WR の大会では毎回国名の呼び方について注意するよう言われますが、本大会でも香港（Hong Kong China）台湾（Chinese Taipei）韓国（Republic of Korea）サウジアラビア（Kingdom of Saudi Arabia）などロールコールの際に注意する国名について、事前にすり合わせがありました。アシスタントスターターは今大会ずっと ARF 審判委員会メンバーであるタイの Jirawat が務めました。彼は同じくタイから参加している Angela のご主人で、今大会は NTO としてスタートタワーで ITO のサポートをしてくれました。経験豊富な方なのでとても安心してスターターを務めることができました。

大会中何度かスタートボタンの不具合があったようでしたが、それにも合わずに何とか午前中のスターターは終了しました。

#### PM : Umpire 4（主審4）

最終日最後の部署は主審4でした。主審艇は5杯ありましたが、表彰があるため審判艇5は表彰対象クルーシャペロンとしてフィニッシュに固定なので、実質4杯でレースを追航しました。

#### 【Umpire Flag】

レース終了間際、韓国の ITO が「Umpire Flag をやろう！」と言って、アジア最終予選の時のビデオを見せてくれました。2019 年の世界ジュニアで見たことはあったのですが、実際自分がやったことは無かったので、最終日午後主審艇で良かったと思いました。

赤旗を両手で掲げるかと思っていたのですが、アジア最終予選同様、垂直に持ってなびかせる方法でやるとのことで「Korean Style」と言っていました。

主審艇1～5まで揃って、音楽とともに旗をなびかせましたが、いざやってみると自分が選手として出ているわけではないのに、何か誇らしい感じがして大変貴重な経験となりました。



表彰式の後に行われた Umpire Flag

### 【SME】

今回のアジアカップでは、「Stay More Event」というイベントがありました。

これは大会終了後に2日間韓国のOCがソウルに宿を手配してくれて、ソウル観光をしてもらうというイベントでした。折角の初韓国なので、喜んで参加させていただきました。

観光中は今回国際審判のとりまとめをしてくれた韓国のHWANG Yong Sangさんや奥様のNicaさんら十数人で韓国チキンを味わったり、同じく韓国のKWON Jae Hyungさんの別荘に招待いただき、奥様のAilenさんやお子さんとKorean BBQを味わったりと韓国料理を満喫させていただきました。



### 【最後に】

アジアのNTOは日本好きな方が多く、プライベートで何回も来日しており、私も行ったことのない全国各地の写真を見せてくれ「日本は素晴らしい!」と言ってくれます。「SAKURA」「HOT SPRING」「JAPANIMATION」などの情報のほとんどをX、youtube、InstagramなどSNSから得ており、彼らは時には日本人の私よりも詳しい情報を持っていて感心させられます。

今年は9月に日本でも広島以来の「アジア大会」が岐阜の長良川で開催されます。開催県の愛知県では実行委員会が設立され、審判の方も参加されています。私はNTOとして参加させていただきますが、自分が受けたおもてなしに少しでもお返しできるよう、アジア各国から日本に来て下さったITO、海外NTOの皆様にもっと日本を好きになって帰っていただきたいと思います。今回審判参加を認めて下さった日本ローイング協会、休暇を頂きました東京都ローイング協会、毎回快く送り出してくれる家族に心より感謝申し上げます。

